

8月19日からの7日間、ごみ減量推進課で3名のインターンシップ生を受け入れました。

今回は特別号として、インターンシップ生にG.G つうしんを作成していただきました！

皆さんはごみを捨てる時、きちんと分別等できていますか...？

早速ですが皆さんにクイズです！

Q1. 右の写真は、資源物として古紙を回収するコンテナに

入っていた新聞紙です。

実はこの出し方は間違っているのですが、どのように出すのが正しいでしょうか？

A1. 新聞紙は紙ひもでしばって出す！新聞紙と段ボールは分別して出す！

持ってきた人は崩れないし運びやすいといった理由でこのような出し方をしたのかもしれませんが。

ですが、新聞紙は白い紙ひもでしばって出しましょう。また、新聞紙と段ボールは分別して出すようにしましょう。



Q2. かんを捨てる際は、プルタブを外して出す。○か×か？

A2. ×

現在のプルタブは写真のような「ステイオンタブ」と言い、タブの取り外しがしにくいものとなっております。

無理に外そうとすると、けがをする恐れがあります。

また、タブを外さずにリサイクルする方が、効率よくリサイクルすることができます。

よって、かんを捨てる際はプルタブを外さず出しましょう！



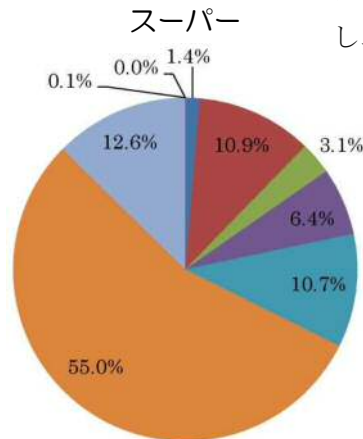
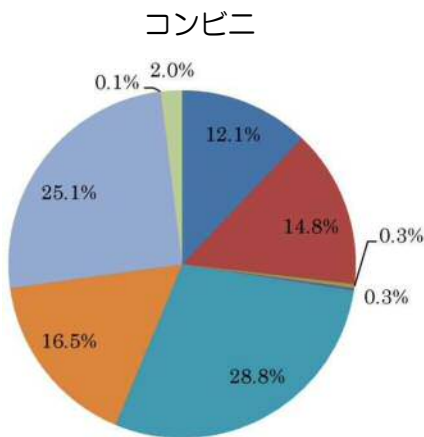
このように皆さんが何気なくやっていることも、実は間違っている、なんてこともあります。出し方や間違ったものが入ってしまうだけでも分別等の手間が増えてしまいます。きちんと分別して、正しい出し方をしましょう！



事業系ごみの組成調査を見学・分析しました

排出されたごみの比較

組成調査とは・・・事業者の業種ごとに収集したごみを、品目ごとに分類し、排出状況を調査するもの



- 再生利用可能な紙類
- 再生不可能な紙類
- 繊維類(布類)
- 木・竹・草類
- 食品ロス
- その他の生ごみ
- 廃プラスチック類、ゴム類
- その他産業廃棄物
- その他



今回は、コンビニから出るごみの組成調査を行いました。コンビニと、同じく小売業であるスーパーで排出状況を比較してみると、コンビニの方が、左の写真のような再生利用可能な紙類（雑がみ）が多く出ています。また本来、**産業廃棄物**に該当するペットボトルやビニール袋などの廃プラスチック類についても、コンビニの方が多く排出されています。

右の写真は、手付かずで捨てられてしまった食品の写真です。市内の事業者から出されるごみのうち年間 8,000～10,000 t 程度、まだ食べることができるのに捨てられてしまった食品、いわゆる「**食品ロス**」が発生しています。こちらもコンビニの割合が高くなっています。



事業所から出るごみを減量、適正処理するためには・・・

1. 再生利用可能な紙類

商品の梱包に使われた紙箱は、雑がみに該当するため、分別してリサイクルしましょう。

2. 廃プラスチック類

ペットボトル

産業廃棄物は、**産業廃棄物処理許可業者**へ依頼しましょう。キャップとラベルをはずし、中をすすいだものは、市の処理ルートに出すこともできます。

ビニール袋

少量の買い物については、お客様にビニール袋が必要かどうかを聞くようにしましょう。

3. 食品ロス

消費者も事業者も、フードシェアリングアプリ「TABETE」を活用するなど、食品ロスを出さない工夫をしましょう。

食品ロスを削減するために・・・

<食品ロスとは・・・>

食品ロスとは、まだ食べられるにもかかわらず捨てられてしまった食品であり、家庭や食品を扱っている事業者から多く発生しています。平成 28 年度の食品ロス推計値は約 643 万トン。そのうち家庭からは約 291 万トン、事業所からは 352 万トン発生しています。

インターンシップ期間中、コンビニからでるごみの組成分析調査の見学した際、手付かずの食品が多く捨てられていることがわかりました。私自身も、旅先で購入したお土産を、期限が過ぎてしまったという理由で処分してしまったことがあり、無意識に食品ロスを発生させていたと実感しました。このインターンシップは食品ロスについて考えるととても良い機会になりました。

ご家庭の食品ロスを減らす例

- ・料理をするときは食べきれぬ量のみ作る→不必要になって捨てる食品を減らせます。
- ・消費期限等を確認して計画的に食品を購入・料理する→家計にもやさしい！

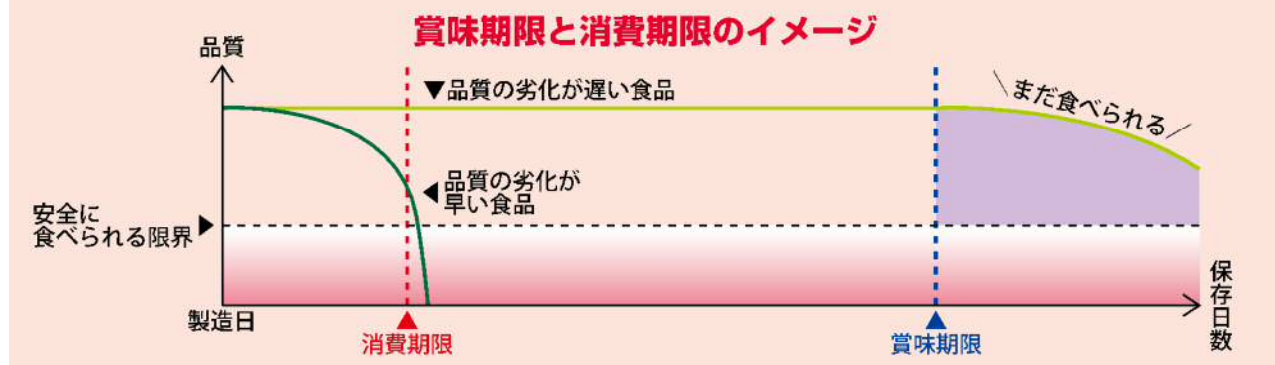
事業所の食品ロスを減らす例

- ・小容器での販売、バラ売り→食べきれぬ量にすることで、廃棄処分を極力防ぎます。
- ・需要をできるだけ予測する→過剰生産を減らし、コスト削減もできます。

○まずは賞味期限と消費期限を正しく知りましょう！

賞味期限：おいしく食べられる期限です。すぐに食べられないということではありません。

消費期限：期限を過ぎたら食べないほうがよい期限です。



○浜松市では、食品ロス削減のため、新たな取り組みを開始します！！

「TABETE(タベテ)」を活用した実証実験を行います！

浜松市は株式会社コークッキングと協働して、同社のスマホアプリ「TABETE」を活用した実証実験を行い、浜松市の食品ロス削減につながるかについて検証します。

令和元年 10 月から翌年 2 月の実証実験に向けて、協力してくださる

モニター（一般市民など）と**市内の店舗**を募集しています。ご協力よろしくお願いします。



実証実験に関するお問い合わせ先

モニター参加はこちらから！→

浜松市環境部 ごみ減量推進課 指導許可グループ

TEL：053-453-6229/E-mail：gomigen@city.hamamatsu.shizuoka.jp



7日間のインターンシップを終えて・・・

今回インターンシップに参加した3人に、7日間参加した感想を聞きました！

私は普段出しているごみについて深く考えることはありませんでした。ですが、ごみ減量推進課の方に、工場での処理だけでなく、行政として「ごみを出さない、減らす」ための施策や工夫を教えてくださいました。7日間のインターンシップで私は、ごみに関わるお金は想像以上に多いということ、いくら市役所の方が苦勞していても、市民には中々伝わらず、「ごみを出さない、減らす」意識を持っていただけていないことが深く印象に残りました。しかし、市民1人ひとりが意識すれば、ごみ減量は必ずできることなので、私自身も、ごみ減量に対して今以上の意識を持って活動をしていきたいと思えます。

(常葉大学 3年 杉浦 寛 さん)



今回ごみ減量推進課にインターンシップを受け入れてくださり、清掃工場の見学やごみの組成調査の立ち合いをさせていただきました。特に組成調査では、まだ食べることができたであろう食品がそのまま捨てられているという事実を知りました。これらの活動を通して、ごみを捨てるという行為は慎重に行っていかなければならないと実感しました。

今後は、食品ロスを減らすために必要な分だけ購入し、生ごみを捨てる際には水切りをするなど、小さいことではありますが、ごみの減量を目指して日々の生活を送りたいと思えます。

(静岡文化芸術大学 3年 熊切 澤太 さん)



7日間という短い期間ではありましたが、自分が浜松市役所の職員になったつもりで環境部ごみ減量推進課のインターンシップに参加させていただきました。今までは、ごみ箱に入れた後のごみが処理される過程など考えたこともなく、ましてやごみを減らさなければいけないという意識もありませんでした。

しかし、7日間ごみについてさまざまな視点から考えてみて、ごみを減らす工夫はいくらでもあるし、ごみを減らすことはとても難しいことではなく、足りないのは一人ひとりがごみを減らさなければいけないという意識を持つことであると改めて実感しました。

今後は、ごみを捨てる際には一度立ち止まって考えるようにして、ごみを減らすような努力をしていきたいと思えます。(愛知大学 3年 大場 千聖 さん)

7日間のインターンシップお疲れ様でした。

学生生活ではできない経験ができたのではないのでしょうか？

インターンシップで学んだことを、今後の学生生活や就職活動などに活かしていただければと思います。

3人の今後のご活躍を期待しています！